

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
161	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Conceptual importance of identifying alcoholic liver disease as a lifestyle disease.</p> <p>アルコール性肝疾患は生活習慣病の一つであると捉える概念の重要性</p>	
執筆者	
Tsukamoto H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Gastroenterol. 2007 Aug;42(8):603-9.	
キーワード	
危険因子による相乗作用、ウィルス性肝炎、糖尿病、女性	
要 旨	
<p>アルコール性肝障害 (ALD: Alcoholic Liver Disease) がアルコールという薬物による単なる臓器障害だとする考え方は必ずしも本疾患の本質を捉えていない。ALD は「アルコールに関連した生活習慣病である」と定義すべきで、その疾病素因は遺伝子と環境の相互作用により規定されている。その意味で、糖尿病、動脈硬化、神経変性疾患といった他の慢性疾患に類似している。ALD の疫学と病因論はこういった観点から見直されるべきである。アルコールと肝障害の二次的危険因子 (高脂肪食、鉄、タバコ、薬物、女性) および併存症 (ウィルス性肝炎、糖尿病) の相互作用の解明はとくに疫学的に差し迫った重要な問題である。これらの相互作用の分子学的な機序を解明することも本疾患の病因、予防、治療に関する新たな知見を得るうえで必須である。</p>	